

胃がん

簡便な「ピロリ菌検診」と

「ピロリ菌専門外来」で胃がんの一次予防

胃がんはピロリ菌が原因で発症するため、その除菌で予防できる。胃がんの一次予防がピロリ菌の除菌。二次予防が内視鏡検査による胃がんの発見である。一次予防の除菌は胃がんの発症自体を予防できるのに対し、二次予防の内視鏡検査の方はがんの発症を予防することはできないが、がんの早期発見・早期治療で死亡のリスクは抑えられる。

このように一次予防であるピロリ菌の除菌はきわめて大切だが、20歳未満の若年のうちに除菌を行えば胃がんを100%近く予防できるのに対し、成人になって胃炎が進行してから除菌を行っても胃がんのリスクはある程度残る。成人の場合、除菌後も定期的に内視鏡検査を



▲加藤元嗣院長

受けることが必要だ。保険診

療上、ピロリ菌の除菌は、内視鏡検査で胃炎の有無を確認して除菌を行うため、ピロリ菌の有無を調べるのに内視鏡検査を受けなければならぬのは、患者にとってハードルが高い。

そこで函館病院(加藤元嗣院長)では、「ピロリ菌検診」を実施している。尿検査だけでピロリ菌の有無を判定でき、30分のスピード判定。検診料も1000円(税込)と格安だ。陽性の場合には内視鏡検査と除菌治療(保険適用)を行う。また同院は「ピロリ菌専門外来」(火曜日午後)を開設。ここでは過去2回の除菌で除菌できなかった人(全体の1%程度)やペニシリンアレルギーの方などを対象に除菌治療(保険外)を行っている。担当医は加藤院長。

独立行政法人国立病院機構

函館病院

函館市川原町18番16号

☎(0138)51・6281